



なぜまち
ま〜じんゆらおう
計画
(概要版)



2023年3月

なぜまちま〜じんゆらおう計画策定委員会

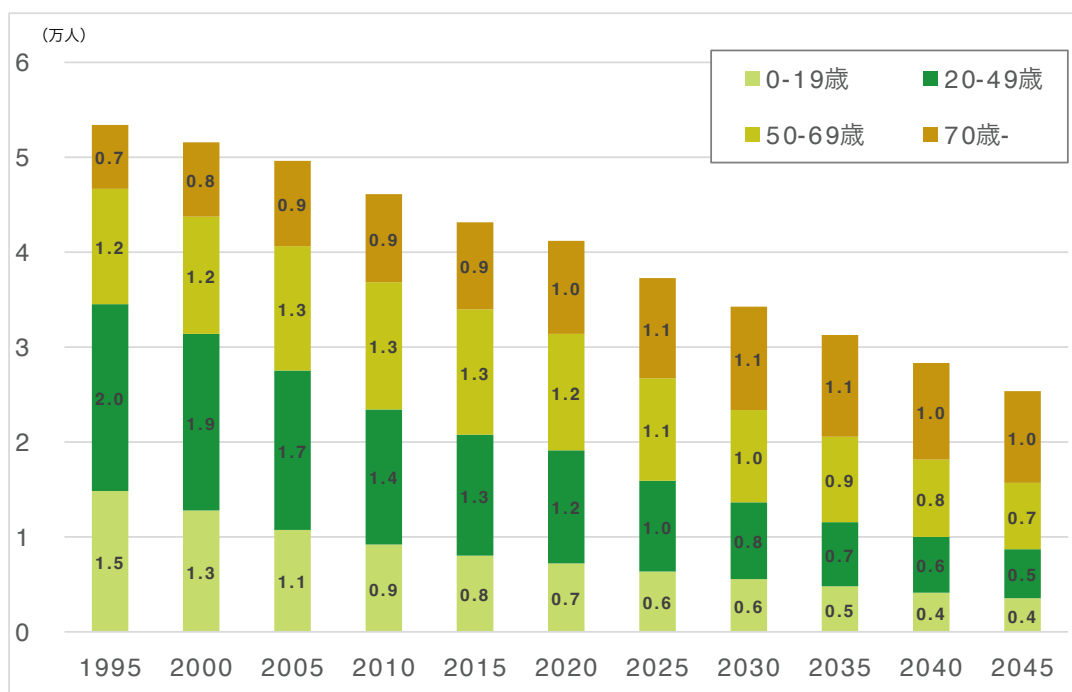
1

はじめに

いま、日本全国で人口減少や少子化、高齢化が問題視されています。

これは奄美市も例外ではありません。このままのペースだと、2040年には人口3万人を割り込み、70歳以上の方は全人口の4割を占める一方、将来の担い手となる19歳以下の若者は1割強しかいないアンバランスな時代がやってくるのが国の研究機関により予測されています。

人はみな、年齢を重ねるにつれ身体的能力が低下してしまい、若い頃には当たり前前にできたことが難しくなってしまいます。それを支える若い世代が少なくなるだけでなく、人口そのものが減ってしまうので、人と人が交流する機会も少なくなり、困ったときに助け合える環境も失われてしまうのではないかと危機感があります。



2

私たちが実現したいこと

このような将来予測のなか、島に暮らしている人々の生活を支えていくために何ができるのか。私たち「まーじんゆらおう計画策定委員会」では、自助（困ったことは自分で解決）、互助（身近な人で支え合い）、公助（国や県、市役所による支援）に加え、共助（誰でも支え合える仕組みづくり）を実現することで、引き続き大きな不便なく島で暮らしていく環境をつくっていきたいと考えています。

その舞台として、奄美市のなかでもさらに人口減少が深刻な中心市街地を選びました。暮らしを支え、彩り、豊かにする90のプロジェクト案について、5年の時間をかけて徐々に実現していきます。

将来はこうした取組みを島中に拡大し、奄美大島全体に共助の仕組みが根付き、誰もが助け、助けられる島となることを願っています。

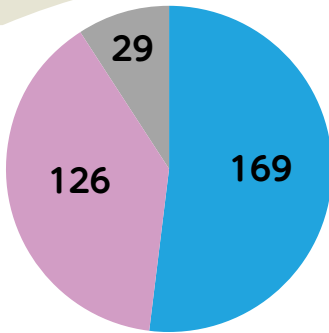
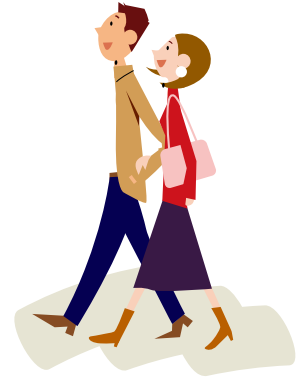
3

なぜまちに暮らす皆さんの声

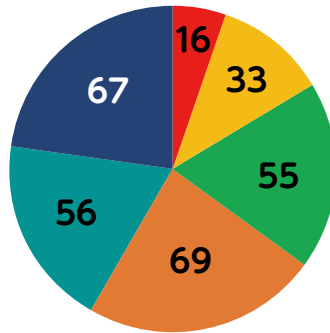
私たち「なぜまちまーじんゆらおう計画策定委員会」がプロジェクトを考えるにあたり、中心市街地にお住いの皆さま全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました。そこでいただいたご意見などを踏まえたうえで再検討を重ねて最終的に90のプロジェクトが誕生しました。



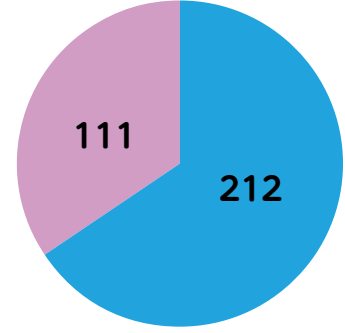
対 象 名瀬まち居住全世帯 (2,350 世帯)
 実施期間 22/12/01 - 23/01/11
 実施方法 全世帯へ郵送
 回 答 数 325 世帯 (回答率 13.7%)



● 男性
 ● 女性
 ● 他



● 10代 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代 ● 70代



● 同居人あり
 ● 単身

ご意見 (一部抜粋)

- ・ ベビールームが少ない。安心して授乳できる場所がない
- ・ 雨の日に遊び場がない
- ・ バスの停留所について、屋根も椅子ないところはとっても不便
- ・ 舗道の整備 (老人や身体の不自由な人にはとても危ない)
- ・ スマホの操作やペイペイなどわかり易く教えてくれる講習会があるといい
- ・ 難聴なので医者との会話について不安
- ・ 粗大ごみが捨てられない (近くに捨てる場所がほしい)
- ・ 賃貸なので働けなくなった時の家賃や生活費が心配
- ・ 年寄がゆっくりお茶のみ場所をつくって
- ・ 街灯が少ない。

私たち「なぜまちまーじんゆらおう計画策定委員会」では、90プロジェクトの実施を通じて「赤ちゃんからお年寄りまで、健康な方も障がいをお持ちの方も、シングルでも子育てパパ・ママでも、まーじんゆらえるなぜまち」を実現していきます。その基本的な考え方として、なぜまちを「みんながみんなを好きでいられる場所」に育てていくことを約束します。

～みんながみんなを好きでいられる場所・なぜまち～

正しさとか、正義とか、それぞれみんな違うから

人は他人になれないから

人の気持ちも価値観も悲しみも苦しみも絶対にわからない

自分は一生じぶん

だから、寄り添い方がわからないかもしれない

でも、好きでいることは自分の気持ち

みんながお互いに好きでいる気持ちを膨らませられたら

色々な違いを許し合えれば、認め合えれば

好きな気持ちが誰かを支え、きっと世界は幸せになる

何が正しくて、何が間違っている

誰それは素晴らしくて、誰それは困ったやつだ

なんてことを訴えるよりも、お互いがちょっとずつ好きになりあえる

小さな好きが積み重なって、そこかしこに優しさが溢れる

そんななぜまちをみんなで作っていきます



6

おわりに

なぜまちに住まう皆さんが楽しく、健やかに、支え合いながら暮らし続け、誰一人として取り残さない地域をつくっていきたいという願いを込めながら、8か月もの時間をかけて練り上げてきた「なぜまちまーじんゆらおう計画」。

しかし、計画の完成は、あくまでもまちづくりのスタート地点に立ったというだけに過ぎません。私たちはこれから5年をかけて90プロジェクトを実現し、なぜまちの未来を拓いていく責務があります。

計画策定のために立ち上げられた委員会は、「まーじんゆらおう計画実行委員会」と改称し、引き続き商店街や行政、商工会議所、まちづくり会社、民間事業者が互いにパートナーとして同じ目標を目指す新たな官民連携組織として活動を継続します。私たちの活動を見て、想いに賛同・共鳴できる新たな仲間や担い手が島中に増えていくことを願い、結びに代えます。

7

まーじんゆらおう計画策定委員会メンバー

「なぜまちまーじんゆらおう計画策定委員会」は、多様な知識や経験、ネットワークを有する25人のメンバーで組織されました。そこに地域コミュニティ再生の専門家が加わり、今後も暮らしやすいなぜまちづくりを目指して組織や年齢、性別などの垣根をこえて意見を交わしました。

<委員>

森 幸一郎、松尾 典昭、里 彰浩、泉 力、指宿 俊彦、川畑 裕徳、
長瀬 悠、東 耕世、久 博幸、西平 せれな、漆谷 碧、下河 勝、
佐々木 悠香、福山 亜希子、山下 久美子、持木 絹代、宮田 夏弥、
保池 穂好、田川 正盛、元野 建三、
師玉 英明、濱川 浩也、畠山 正明、
麓 浩登志、友原 吾朗

<専門家>

前田 幸輔（前田さいわい商店）





2023年3月1日 初版
発行・編集・著作 まーじんゆらおう計画策定委員会
奄美市名瀬港町15番1号 奄美市通り会連合会内
原稿 前田幸輔
印刷 有限会社奄美共同印刷

この「まーじんゆらおう計画」は、
令和4年度市町村振興宝くじ助成事業により作成したものです。
(奄美市通り会連合会)

